

## 核不拡散等連絡会セッション

「核不拡散・核セキュリティ研究開発における今後の課題・ニーズについて」

## (1) 保障措置に係る研究開発の課題・ニーズ

(1) Challenges of IAEA Safeguards and Needs for Research and Development

\*堀 雅人

日本原子力研究開発機構

核不拡散、保障措置、核セキュリティ連絡会の招待講演として、核不拡散における保障措置技術の重要性を踏まえ、保障措置の課題と研究開発のニーズについて報告する。

**キーワード：**核不拡散, 保障措置, JCPOA, SLA

国際原子力機関（IAEA）による保障措置は、核不拡散強化のための制度の一つとして、また、核不拡散の信頼醸成措置として、国際的な核不拡散の強化と原子力平和利用の推進に寄与してきた。

保障措置の目的は、当該国が IAEA との間で結ぶ保障措置協定に基づいて、①申告している核物質の転用がないこと、②申告している原子力施設において不正利用が行われていないこと、③未申告活動・核物質がないことを、IAEA が技術的に検認し、当該国が協定上の義務を履行している確証を与えることである。本制度において、「転用」、「不正使用」、「未申告活動・核物質」を検知するための保障措置技術が重要で、その技術の向上によって、制度は、より効果的、効率的なものになる。

本講演では、核不拡散における保障措置技術の重要性を踏まえ、IAEA 保障措置の課題と研究開発のニーズについて報告する。

主な内容としては、

1. IAEA 保障措置局の組織と予算
2. 保障措置を取り巻く昨今の動向－イラン JCPOA (Joint Program of Action)
3. 保障措置の最適化のための取組－国レベルの保障措置アプローチ (SLA)
4. 保障措置に関連するプロジェクト (MOSAIC (Modernization of Safeguards Information Technology)、ECAS(Enhancing the Capability of the Safeguards Analytical Laboratories))
5. 保障措置の研究・開発の課題・ニーズ (保障措置長期 R&D 計画 2012-2023、2016-2017 保障措置開発・実施支援計画)

について紹介する。

本講演を通じて、IAEA 保障措置制度、保障措置技術、保障措置の研究開発ニーズに対する学会員の皆様の理解が深まり、保障措置技術の高度化に関する取り組みが強化されることを期待している。

---

\*Masato Hori

Japan Atomic Energy Agency